

第4回小砂環境芸術祭

KEAT2023

美術・集落・風 — 小砂の森

目次

- 01 目次
- 02 ご挨拶
- 03 ARTMAP
- 05 アーティスト紹介
出品作家
- 11 招待作家
- 13 賛助作家
- 15 出品作品リスト
- 17 イベント
- 19 賞に関して・展覧会歴／賞歴
- 21 KEAT2023、破壊を前提としない日常のなかで
- 22 奥付け

第4回小砂環境芸術祭 KEAT2023 美術・集落・風—小砂の森

【会場】栃木県那珂川町小砂地区

【会期】2023年4月29日(土)～5月7日(日)

【時間】9時～17時 ※最終日のみ14時となります

【鑑賞】無料

【主催】KEAT 小砂環境芸術祭実行委員会・NPO法人美しい日本の森と芸術

【後援】那珂川町・那珂川町教育委員会・那珂川町観光協会・下野新聞社・読売新聞宇都宮支局

【協力】那珂川町馬頭広重美術館 小砂 Village 協議会 お母ちゃん Café

【問合せ先】実行委員会事務局 ホテル美玉の湯内

〒324-0611 栃木県那須郡那珂川町小砂3102 TEL: 0287-93-0811 FAX: 0287-93-0315

【KEAT2023 実行委員会】代表・笹沼享一／副代表・藤田 清／アートディレクター・海老塚耕一
委員・有坂隆二、岩本拓郎、大川欽也、大野正勝、木村爽陽、藤田悦男、藤田眞一、村窪信行
総合プロデューサー・大熊貞雄／特別顧問・渡辺豊重

【出品作家】阿久津 溪／市川裕司／内山翔二郎／亀元 円／木村剛士／構想計画所
佐々木玲奈／ジャン・ビンナ／五月女かおる／松尾ほなみ／渡邊透真

【招待作家】有坂隆二／岩本拓郎／木村爽陽

【賛助作家】渡辺豊重／海老塚耕一

ご挨拶

KEATとは Koisago Environmental Art Triennale の頭文字をとった略語で、キートと言います。設立目的は、日本の森林等の美しい環境や景観の存在への関心を広く一般市民に喚起するため、地域の美しい環境の中で様々な芸術活動を展開し、市民に広く芸術に親しんでいただくとともに、これらの芸術活動に参加する若手を中心とした美術家・芸術家を支援し、これらの活動を通じて日本の各地域社会での観光や地域振興、芸術振興に寄与することを基本目的に、NPO法人「日本で最も美しい村」連合から認定された栃木県那珂川町小砂地区の豊かな森林資源を生かし、里山全体を美術館—表現の現場とし「里山とアートの関係性」を提示するアートプロジェクトです。

本企画は2013年に第1回を開催、その後2016年(第2回)、2019年(第3回)と順調に開催してきましたが、2020年から新型コロナウイルスの感染拡大により、2022年(第4回)開催を断念。まだまだ収束の兆しは見えませんが、減少傾向と予防対策を講じながら本年(2023年)4月29日から5月7日迄の9日間開催することを決定しました。

今回は10名の作家とひと組の制作集団を招聘して開催します。副題を「美術・集落・風—小砂の森」としました。「小砂の森」には集落があり、風が吹いています。そんな日常のなかに美術・芸術があるという光景がここでは普通という、そんな日が来ることを夢見て第4回目の展覧会は企画されています。

時間とともに朽ちていく作品もあります。期間だけ設置される作品もあります。それはかつての床の間のような世界を、あるいは自然と共生することで作られた美をここで再び構築し、自在な変化のなかを生きようと言うことです。作品と小砂の森・里山との関係は日々変化します。場に倚りかかる、境界に倚りかかる、季節に倚りかかることでなされる表現を大切にしたいということです。

環境を読み込むことで作品は作られますが、そこには常に新しい言葉が芽吹いているはず。安全な場ではないですから自然とのコラボレーションと素材の表現力が大切になります。

此処は今までの美術館とは異なった壁のない美術館です。小砂が持つ自由と表現者の自由、そして鑑賞者の自由がここで出会い、あるがままの時間が広がることを願い本展を開催します。

ARTMAP



1 KEAT2023 案内所



渡辺 豊重

〒324-0611 栃木県那須郡那珂川町小砂 2710



- 2** よるこびの森 P
内山 翔二郎・木村 剛士・構想計画所・ジャン・ビンナ
- 3** 市川窯 **4** 那珂川町馬頭広重美術館 P
木村 爽陽 海老塚 耕一・木村 爽陽
- 5** 旧馬頭西小学校音楽室 P **6** 小砂コミュニティセンター P
有坂 隆二・岩本 拓郎 市川 裕司
- 7** 旧馬頭北保育所 P **8** コミュセン先小屋
佐々木 玲奈・渡邊 透真 阿久津 溪
- 9** 石蔵 **10** 小砂郵便局向い **11** 旧馬頭西小入り口
亀元 円 五月女 かおる 松尾 ほなみ
- 12** 藤田製陶所 P **13** 松並陶苑 **14** 朱雀窯
木村 爽陽 木村 爽陽 木村 爽陽

【出品作家】

略歴+参考作品

阿久津 溪

佐々木 玲奈

市川 裕司

ジャン・ビンナ

内山 翔二郎

五月女 かおる

亀元 円

松尾 ほなみ

木村 剛士

渡邊 透真

構想計画所

Akutsu Kei



阿久津 溪

展示場所

8 コミュセン先小屋

(あくつ・けい) 1993年アメリカ ミシガン州生まれ。2016年武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業、2018年愛知県立芸術大学大学院美術研究科美術専攻彫刻領域修了。



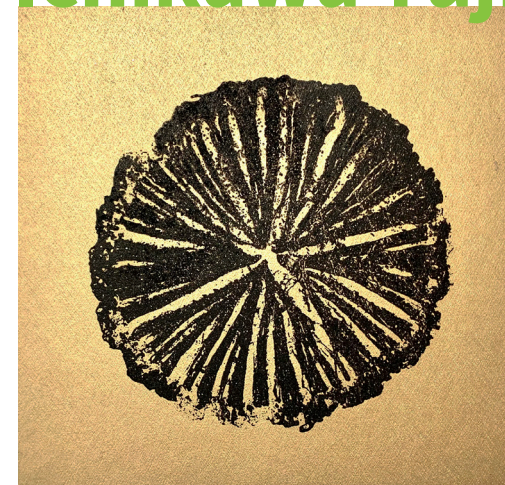
市川 裕司

展示場所

6 小砂
コミュニティセンター

(いちかわ・ゆうじ) 1979年埼玉県生まれ。2005年多摩美術大学大学院美術研究科絵画専攻日本画領域修了、2012年五島記念文化財団海外研修員(ドイツ デュッセルドルフ)。

Ichikawa Yuji



Uchiyama Shojiro



内山 翔二郎

展示場所

2 よろこびの森

(うちやま・しょうじろう) 1984年 神奈川県生まれ。2010年 日本大学大学院藝術学研究科造形芸術専攻博士前期課程 彫刻分野修了、2013年 第16回岡本太郎現代芸術賞 特別賞受賞。



Kamemoto Tsubura



亀元 円

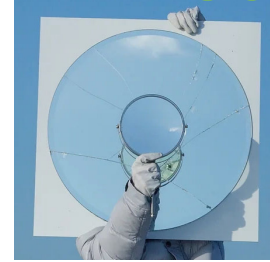
展示場所

9 石蔵



(かめもと・つぶら) 1992年東京都生まれ。2018年武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻彫刻コース修了、2015年第22回公募展 木彫フォークアートおおや 入選。

Conceptual Architect



構想計画所

展示場所

2 よろこびの森



(こうそうけいかくしよ) 2009年前野智彦(多摩美術大学美術学部芸術学科非常勤講師)を所長として活動を開始。構成員はプロジェクトごとに複数の表現者で組織される。

Kimura Takeshi



木村 剛士

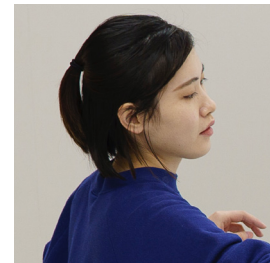
展示場所

2 よろこびの森



(きむら・たけし) 1980年宮城県生まれ。2007年多摩美術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了、2010年群馬青年ビエンナーレ 2010 奨励賞、多摩美術大学彫刻学科講師。

Sasaki Reina



佐々木 玲奈

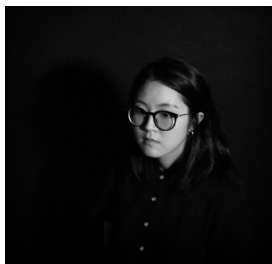
展示場所

7 旧馬頭北保育所



(ささき・れいな) 1997年千葉県生まれ。2016年女子美術大学附属高等学校卒業、2021年東京藝術大学卒業、東京藝術大学大学院入学。

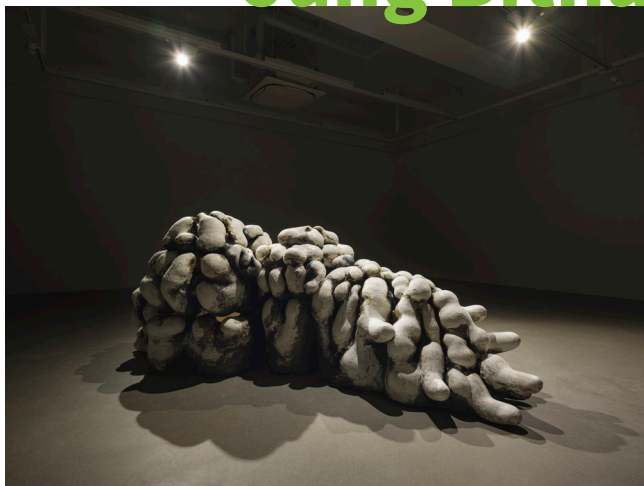
Jang Bitna



ジャン・ビンナ

展示場所

2 よろこびの森



(じゃん・びんな) 1989年韓国 釜山生まれ。2020年多摩美術大学大学院美術研究科博士後期課程工芸 / 陶専攻修了、博士号取得。

Matsuo Honami



松尾 ほなみ

展示場所

11 旧馬頭西小入り口



(まつお・ほなみ) 1990年千葉県生まれ。2014年武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業、2016年東京藝術大学大学院修士課程彫刻専攻修了。

Soutome Kaoru



五月女 かおる

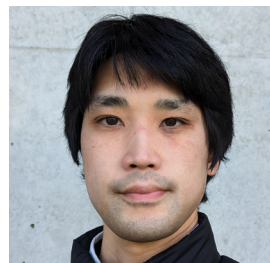
展示場所

10 小砂郵便局向い



(そうとめ・かおる) 1996年栃木県生まれ。2019年秋田公立美術大学美術学部美術学科ビジュアルアート専攻卒業、2022年愛知県立芸術大学大学院美術研究科彫刻領域博士前期入学、在学中。

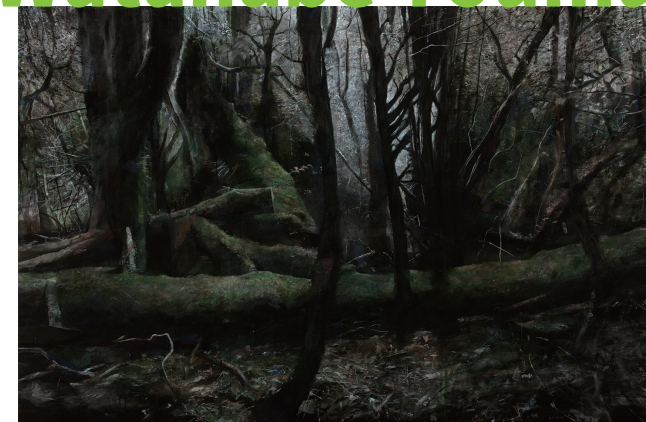
Watanabe Touma



渡邊 透真

展示場所

7 旧馬頭北保育所



(わたなべ・とうま) 1987年東京都生まれ。2012年多摩美術大学美術学部絵画学科日本画専攻卒業、2014年東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了。

【招待作家】

略歴+参考作品

有坂 隆二
岩本 拓郎
木村 爽陽

Arisaka Ryuji



有坂 隆二

展示場所

5 旧馬頭西小学校音楽室

(ありさか・りゅうじ) 1952年栃木県生まれ。1977年東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業、色彩的なインスタレーション作品を中心に制作活動。県内の美術館や教育現場と連携した美術の教育普及に積極的に関わっている。



Iwamoto Takuro



岩本 拓郎

展示場所

5 旧馬頭西小学校音楽室

(いわもと・たくろう) 1951年島根県生まれ。1975年東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業、1977年同大学院版画専攻修了。東京国立近代美術館、山口県立美術館、栃木県立近代美術館等にコレクション。



Kimura Souyou



木村 爽陽

展示場所

3 4 12 13 14

市川窯・藤田製陶所
松並陶苑・朱雀窯
那珂川町馬頭広重美術館

(きむら・そうよう) 1969年千葉県生まれ。1989年草月流入門。日本いけばな芸術協会北関東展、草月90周年記念展、水のないいけばな展等出展、2021～2023年栃木県指定文化財 瀧澤家住宅にて野外竹アート制作、2022年増上寺大殿ステージ舞台装飾制作参加、2023年草月作品賞受賞、外務省飯倉公館 レセプション会場で装飾制作。

Ebizuka Koichi



海老塚 耕一
【アートディレクター】



撮影：望月 孝

展示場所

4 那珂川町馬頭広重美術館

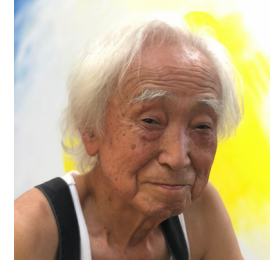
(えびづか・こういち) 1951年神奈川県生まれ。1979年多摩美術大学大学院美術研究科修了。1986年第6回インド・トリエンナーレ ゴールド・メダルを受賞、1991年第15回平櫛田中賞を受賞、2001年「第19回現代日本彫刻展」神奈川県立近代美術館賞を受賞、2003年タカシマヤ文化賞受賞。

【賛助作家】

略歴+参考作品

海老塚 耕一
【アートディレクター】
渡辺 豊重
【特別顧問】

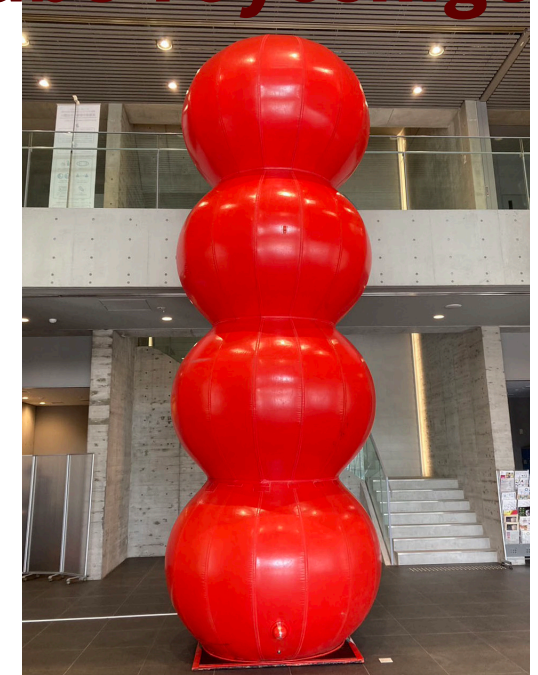
Watanabe Toyoshige



渡辺 豊重
【特別顧問】

展示場所

1 KEAT2023 案内所



(わたなべ・とよしげ) 1931年東京都生まれ。第12回安田火災東郷青児美術館大賞受賞、第24回長野市野外彫刻賞受賞(長野冬季五輪彫刻作品)、2015年「画業60年 渡辺豊重展」(川崎市市民ミュージアム、栃木県立美術館、岩手県立美術館、読売新聞社、公益財団法人岩手県文化振興事業団、美術館連絡協議会)。

住民とアーティストのコミュニケーションを深め 新しい美術展の在り方を模索する

当地、栃木県那珂川町には、馬頭温泉郷(夕焼け温泉郷)があります。自然環境に恵まれた静かな保養地として多くの方に親しまれて来ました。温泉のある小砂地区にはこの地名を付けた小砂焼や菊炭など歴史的な文化財も残されています。また、歌川広重の作品群を所蔵し展覧する隈研吾設計の「那珂川町馬頭広重美術館」、アールブリット、アウトサイダーアートを主なテーマに掲げる日本で最初的美術館「もうひとつの美術館」、絵本を展示する「いわむらかずお絵本の丘美術館」があります。

同地で、2013年より始められた「小砂環境芸術祭」は若手の作家の参加と地域住民とのコミュニケーションを深める形でスタートし、10年の歳月を数えました。昨年は過去3回の活動記録集を上梓しました。本年新たなアートディレクター・海老塚耕一を迎え新たな展開が始まりました。

出品作品リスト

【出品作家】

阿久津 溪

《増殖の力学》 可変 オカメザサ 2023 ⑧コミュニセン先小屋

あらゆる事象は彫刻になるだろうという考えから彫刻することを始める。今までであれば、それは量と量の衝突による結果であったり、無くなることによるバランスの変化であったりした。では、増殖と交差を繰り返すことにより力学的要素を孕んだ物質は彫刻と呼べるのだろうか。

市川裕司

《小砂菊炭図屏風》六曲一双 金屏風・シルクスクリーン 2023 ⑥小砂コミュニティセンター

この素朴で精緻な菊炭の模様、小砂が紡いできた日本に誇る美しさと伝統が表れています。

内山翔二郎

《刹那の花》1500×2200×2800 鉄 2023 ②よろこびの森

《ソウゾウムシ》830×2420×3050 鉄 2016 ②よろこびの森

やがて錆びて朽ち果てていく鉄の有機的な一面は生命の循環を思わせ、記憶や思いを巡らせる。

亀元 円

《馬の山》700×2000×1000 杉 2023 ⑨石蔵

小砂の歴史に関する出来事とその地形について制作を通して何かを掘りおこせたら、と思い作品にしました。

木村剛士

《Long time no talk》可変 ホワイトコンクリート・種子 2023 ②よろこびの森

敷石の中には長期種子が練り込まれており、作品が自壊した時に植物の時間の流れ方を共有出来るかもしれません。

構想計画所

《習慣》可変 雑木林・ストレッチフィルム 2023 ②よろこびの森

習慣は里山の生き物にとっての異物、あるいは仮住まいとなる環境です。

佐々木玲奈

《私はここにいる》380×350×420 楠 2023 ⑦旧馬頭北保育所

小砂を訪れることで感じた自然の美しさと、そこに息づく生き物達に思いを馳せ、一つのかたちになりました。

ジャン・ビンナ

《見たいもの》1200×2000×250 陶 2023 ②よろこびの森

私が小砂の風景を前にしたときに感じ取った「何か」。その場その時の感情や印象を作品の中に保つ。

五月女かおる

《食事の風景》可変 鉄 2023 ⑩小砂郵便局向い

ペットや家畜といった飼育されている動物から、人を取り巻く環境にアプローチする表現を試みています。

松尾ほなみ

《残像》可変 間伐材 2022～2023 ④旧馬頭西小入り口

生木に人を彫る。すると林は少し明るくなる。いつもの風景。通りすぎるあなたに、一瞬の眼差しを。

渡邊透真

《一陽來復》可変 和紙・木・岩絵の具・キャンバス・顔料 2023 ⑦旧馬頭北保育所

小砂のやわらかい光、森と人々の暮らしの間を流れる軽やかな風を感じ、作品を形づくりました。

【招待作家】

有坂隆二

《虹のらせん》2000×2000×2000 (サイズ可変) 木・アクリル絵具・紙管 2019 ⑤旧馬頭西小学校音楽室

4色の角棒を螺旋に積み上げ色彩の静力学を表現。新作は4色の小片を鏡と組あわせ小砂への応答としたい。

岩本拓郎

《静かな白い音》1300×1300 キャンバスにアクリル絵具 2022 ⑤旧馬頭西小学校音楽室

描くことによって世界を生み出したい。光を現したい。

木村爽陽

《風・光》2000×1000×1000 植物・真竹・市川窯陶器 2023 ③市川窯

市川窯前で広野に沈む夕日を見て、光の中を風が吹きわたるような風光る大地を表現しました。

《風・起》3000×1500×1500 真竹・番線・ワイア 2023 ④那珂川町馬頭広重美術館

清められた空間から物事が始まる、命の始まりや転じていく様を表現しました。

《風・舞》3000×2500×2500 真竹・番線・ワイア 2023 ⑫藤田製陶所

小砂の空気と窯元の炎が絡み、踊る生命を表現しました。

《風・風》1500×1000×1000 植物・真竹・松並陶苑陶器 2023 ⑬松並陶苑

小砂の静けさ、穏やかな空間は、まるで風の海のように。優しい海風を表現しました。

《風・雅》2000×1000×1000 植物・真竹・朱雀窯磁器 2023 ⑭朱雀窯

朱雀窯の白い磁器から洗練された風雅を感じ、春の美しい柵田に凜として咲く花を表現しました。

【賛助作家】

海老塚耕一

《ゆらぎ・水と光りの積分ー小砂から》120×1050×10200

小砂の水・小砂の土・鉄・アルミニウム・ゴム・木 (アゾベ)・クリスタルワックス 2023 ④那珂川町馬頭広重美術館

五カ所の小砂の水と小砂の土の上に錆が落ちていく。風がそれらを混合。ひとつの装置があるがままの素材の姿を連結していく。

渡辺豊重

《モクモク》6000×2000×2000 ビニールシート・送風機・ステンレス・ワイヤー 1988 ①KEAT2023 案内所

88年に鎌倉近美の「今日の作家たちI」に出品され美術館の中庭に展示されてから、世田谷美術館、馬頭町、多摩美といくつ

かの場所に展示され、今回は本展のシンボルとして、案内所前に設置。

※

作家名

《タイトル》 サイズ (H×W×D mm) 素材 制作年 場所

制作メモ

EVENT イベント



お母ちゃん Café

小砂のお母ちゃん達による
期間限定の Café です。
おいしいコーヒーと手作りのお菓子をどうぞ。
開催日： 4/29 (土) 4/30 (日) 5/3 (水)
時間：10:00～15:00
場所：KEAT2023 案内所



KEAT 茶会

小砂の茶道家による抹茶の
おもてなしを味わってください。
小砂の風を感じてください。
開催日： 5/4 (木) 5/5 (金)
時間：10:00～15:00
場所：旧馬頭北保育所 庭
参加：無料



小砂焼・春の陶器市

春の小砂焼各窯元作品の展示即売会。
恒例の餅つきや出店など、にぎわいを見せます。
開催日： 5/4 (木) 5/5 (金)
時間：9:00～15:00
場所：藤田製陶所前の広場



クロージングパーティー

KEAT2023 最終日にクロージングパーティーを行います。
懇親会を兼ねて、
揚琴演奏の第一人者
金亜軍さんによる演奏と、
お母ちゃん Café による
素敵な軽食をご用意しております。
日時：5/7 (日) 14時～16時
場所：小砂コミュニティセンター
参加：無料



「KEAT2023 美術・集落・風一小砂の森」展の賞に関して

「KEAT2023 美術・集落・風一小砂の森」展に関しては従来の「大賞」は設けません。多様化を謳われる現代において、ひとつの作品を選択することは不可能であり、作品に対して誠実ではないと考えます。本展に出品することですでに選択されており、その上に善し悪しを、あるいは優劣を決することには、それなりのきちんとした整合性が必要でしょう。現在の世界は多種多様な眼差し・思想が存在します。そこが大切であると本展実行委員会は考えました。そこですべての賞は、賞を出す個人・団体に選考を委ねることにしました。したがってここでの賞は順位ではないことをご理解いただき、ご鑑賞いただければ幸いです。

展覧会歴／賞歴

KEAT 小砂環境芸術祭 2013

会期 2013年4月29日(月)～5月6日(月)
開場時間 9:00～17:30(最終日のみ15:00まで)
場所 栃木県那須郡那珂川町小砂地区各所
鑑賞 無料
出展アーティスト 青木 香保里 / 浅井 充 / 井口 雄介 / 伊藤 沙織 / 稲垣 侑子 / 原 佳史 / 松尾 ほなみ / 松尾 美森 / 森 洋樹
アートディレクター 小佐原 孝幸
KEAT 実行委員長 藤田 清
主催 KEAT 小砂環境芸術祭実行委員会
協力 小砂 Village 協議会
後援 那珂川町 / 那珂川町教育委員会 / 那珂川町観光協会 / 下野新聞社

審査結果
審査委員長 渡辺 豊重
審査委員 小勝 禮子
大賞
松尾 ほなみ 《都市の残像》
那珂川町長賞
井口 雄介 《キョウカイヲコエテ》
那珂川町議長賞
青木 香保里 《境界》
那珂川町観光協会長賞
原 佳史 《軸になる辺》
小砂特別賞
稲垣 侑子 《土地ドレコレクション》

KEAT 小砂環境芸術祭 2016

会期 2016年4月30日(土)～5月7日(土)
開場時間 9:00～17:00(最終日のみ14:00まで)
場所 栃木県那須郡那珂川町小砂地区各所
鑑賞 無料
出展アーティスト 安齋 歩見 / 稲垣 侑子 / 隅 沙織 / 田川 岳 / 田中 彰 / 田原 唯之 / 玉田 多紀 / 八木 麻里 / 渡邊 透真
アートディレクター 小佐原 孝幸
KEAT 実行委員長 藤田 清



主催 KEAT 小砂環境芸術祭実行委員会
後援 小砂 Village 協議会 / 那珂川町 / 那珂川町教育委員会 / 那珂川町観光協会 / 下野新聞社 / NPO 法人美しい日本の森と藝術

審査結果
審査委員長 渡辺 豊重
大賞
田原 唯之 《最も関わりのある場所 - 光の庭 -》
渡辺豊重賞
八木 麻里 《めたるふらわぁ》《あんたいとる》
那珂川町長賞
隅 沙織 《覗くタコ》
那珂川町議長賞
玉田 多紀 《おかしなキノコ》
那珂川町教育長賞
渡邊 透真 《Gateway》
那珂川町観光協会長賞
田中 彰 《イチョウの話》
小砂特別賞
稲垣 侑子 《土地ドレコレクション》

KEAT 小砂環境芸術祭 2019

会期 2019年4月27日(土)～5月6日(月)
開場時間 10:00～16:00(最終日のみ14:00まで)
場所 栃木県那須郡那珂川町小砂地区各所
鑑賞 無料
出展アーティスト 高山 瑞 / 白田 那智 / 田原 唯之 / 船山 哲郎 / 松尾 ほなみ / 宮本 一行 / 渡邊 透真
アートディレクター 小佐原 孝幸
KEAT 実行委員長 笹沼 享一
主催 NPO 法人美しい日本の森と藝術 / KEAT 小砂環境芸術祭実行委員会
協力 小砂 Village 協議会 / 小砂行政区学校保存会 / お母ちゃん Café
後援 那珂川町 / 那珂川町教育委員会 / 那珂川町観光協会 / 下野新聞社

審査結果
審査委員長 渡辺 豊重
審査委員 小勝 禮子
大賞
高山 瑞 《泉・根の国》《森の陰画》
美森賞
松尾 ほなみ 《かくれんぼ》
那珂川町長賞
白田 那智 《TO CONNECT THE INSIDE AND THE OUTSIDE》
那珂川町教育長賞
船山 哲郎 《ひとつながりの長椅子 / 共生の跡》
那珂川町議長賞
渡邊 透真 《春の木の眺め》
那珂川町観光協会長賞
宮本 一行 《感覚風景の陰陽》
小砂特別賞
田原 唯之 《KKKKKK》

KEAT2023、破壊を前提としない日常のなかで

昨年の12月半ばに初めて小砂を訪れ、実行委員会の方々とお目にかかったとき、残された作品群を拝見する前に集落の方々の眼差しが作品を作っていると、素直に感じました。それは鑑賞後はっきりと確信できました。その集落の方々の眼差しは今でも絶えることなく続いています。集落の方々が制作する作家の姿に興味を持ち、その上で作品を鑑賞したことで、このような「場」がそして日常が表出したのだと素直に感じました。有機的な都市には、現在では見ることのできない「死」の日常がありました。そしてそれが都市においては自然性のひとつとしての実体でした。逆に、敢えて田舎という言葉を使いますが、有機的な田舎には「生」の日常がありました。それが田舎の自然性のひとつとしての実体です。大自然なんて言う陳腐な言葉で表すことのできない、人間も共に生きる「自然」の実体です。ここ小砂の地に触れたとき、有機的な「生」が残っている「場」と見えました。ここで美術が息をしたならどれだけ素敵かを思いました。

集落の方々が美術に作品に興味を持ったということは大切なことです。何かしらの楽しさが見えたとき、何かしらの芽生えが可能である事を、集落の方々の行動は僕に教えてくれました。美術家である僕、プロデューサー・ディレクターとしての僕、そして〇〇としての僕のあり方を考え直す良い機会でした。美術至上主義の上から目線の美術展には辟易としていたので、ここで集落の方々と行動することは考えるための願ってもない機会でした。大学で展覧会を構築するゼミを38年行ってきた身としては、形式的な「展」とは異なる形の構造のなかで仕事をし、考えたいという気持ちがありました。地元の方々の話を聞き入れて美術展を構築するという自在さは今までの美術展ではできなかったし、集落の方々が外野ではないという、そのような可能をより形にしたいと考え始めました。

たくさんの障害があることは確かです。「美術展」なのだからそれはあたりまえでしょう。高層化された都市は土から離れて浮遊しているようです。歩くことよりも浮かんでいることが意識されます。落ちていくことと「死」が結ばれています。鳥瞰できる都市は破壊のイメージを育みました。それは破壊と消滅への感受性を鋭敏にさせました。都市は破壊と再生を繰り返します。それは多様な現代の組織にも言えることです。使い捨ての文化です。連続性というものがない世界です。個のアイデンティティは無意味さのなかに散乱して行くだけでしょう。そこで「美術」はどのような意味を求めるのでしょうか。僕は疑問を感じています。「アート」と言われることに反発もします。生産されると同時に消費される都市と「アート」は密接な関係を持っています。連続性が途絶えたなかで。

小砂では「美術展」を開催します。「美術」が生きる場所とする意思を持って企画を進めています。そしてもうひとつ、この地域を使いこなすリテラシーが生まれることを期待しています。

小砂という地域・領域を生きるための道具として使いこなしていくことで、土から離れて連続性を失った都市には作ることができない、破壊を前提としない日常がここでは生成しています。そんな日常に美術・藝術が生活の大切な要素として含まれていることがあたりまえであることを証明するための新たな始まりが「KEAT2023—美術・集落・風—小砂の森」でありたいと考えています。

【アートディレクター】海老塚耕一

KEAT2023 実行委員会

【代表】笹沼享一

【副代表】藤田清

【委員】有坂隆二

岩本拓郎

大川欽也

大野正勝

木村爽陽

藤田悦男

藤田眞一

村樫信行

【アートディレクター】海老塚耕一

【総合プロデューサー】大熊貞雄

【特別顧問】渡辺豊重

【冊子デザイン】構想計画所

発行日：2023年4月29日

発行：KEAT2023 実行委員会

〒324-0611

栃木県那須郡那珂川町小砂3102

TEL：0287-93-0811 FAX：0287-93-0315

印刷：ラクスル株式会社



里山が美術館

